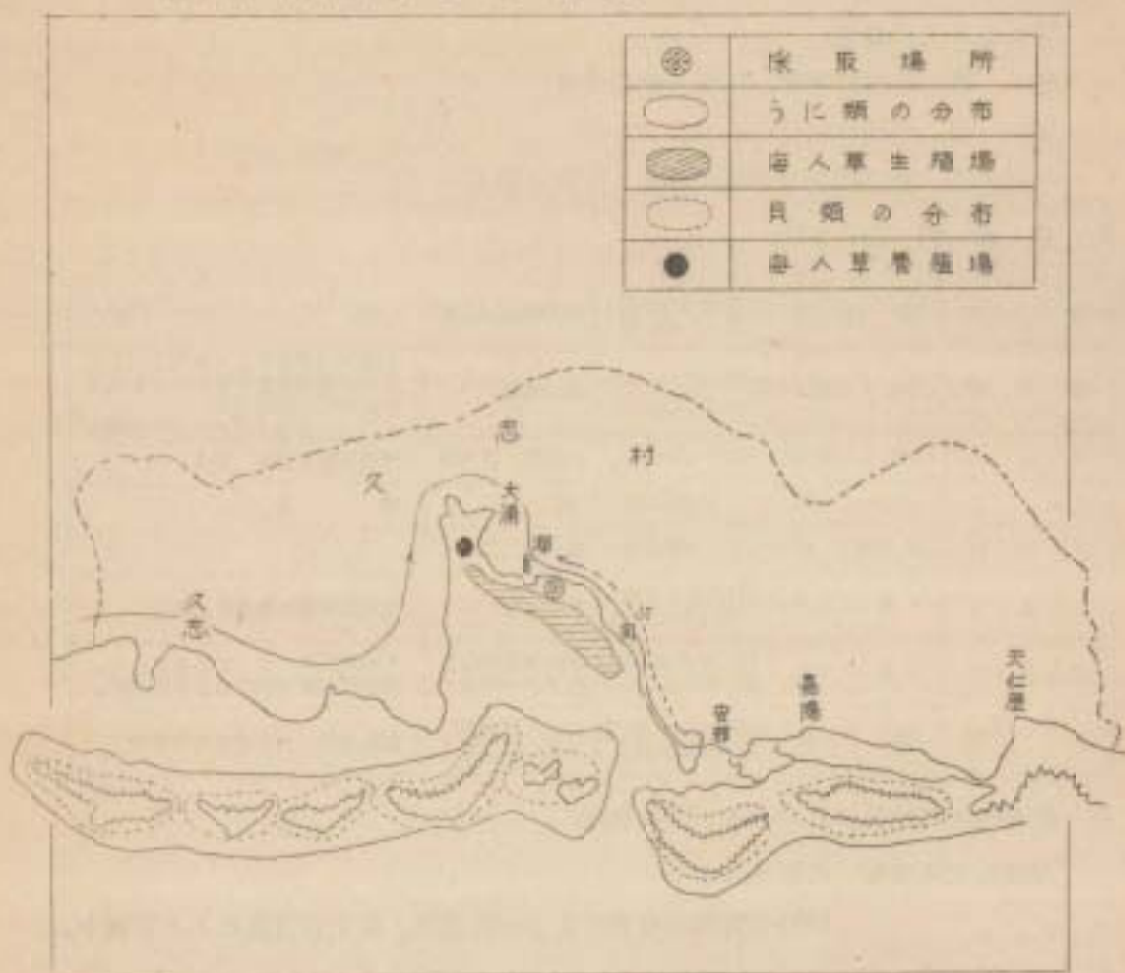


調査略図及び歩留表



1956年6月9日 殻付及採取量（湘嵩地先）3箇中平均

規格	殻径	殻付3殻	卵量5殻	歩留	備考
大	8.3cm	60殻	3.0殻	5.0	△ 青色 稚且適地でない
中	8.0 "	41 "	1.9 "	—	△ 青色 利用価値なし
小	6.5 "	27 "	0.5 "	—	△ 青色 利用価値なし

④ 履我地村沿岸

- 調査場所 履我地村履我、我部、浜井出地先
 調査期間 1956年6月22日～23日 2日間
 調査方法 海中調査及び漁民部落より聞取調査

2. 生産調査

種別	採集期	年間生産高及び産数	利用部類の割合	備考
漁人草	7月以降	100斤~150斤程度	島内消費	漁沖出地先に多く見受けらる。
肥料用種	5・6月以降10月頃	900斤程度		半農業者が多く自家用肥料。
いか	7月以降		自家用程度	殆んど産熟期に消費。
甲いか			〃	〃
たこ	同 年	350斤位	〃	〃
なまこ	6月~7月	お3,600斤位	〃	利用者なし
ばふんりに	6月~7月	1952年産予想高(古守利島を含む) 800斤	自家用程度	調査済沖出地先で産出1,200斤位採取可能との事
かに			自家用程度	漁沖出地先の産出地帯に多く見受け、主にたいわきがさみ

3. 調査地区内に於ける水産加工業の有無

海藻加工処理場 齊井出部喜 1954年岩江産業により集荷処理

なまこ燻製処理場 齊井出部喜 組合員により一時生産処理

4. 調査経過

イ. うに資源について

うに類の分布は島の東北岸に多く漁沖出地先及び対岸の小島附近に群棲し、6月乃至7月の2ヶ月間が身入状態もよいと謂はれているが、調査先は海藻類もよく繁茂して外海に面した島端で「うに類」は現在也卵期を示している。

尚、大潮時は対岸より採取可能な場所であり成熟期には婦女子の家庭加工業として有望である。

1954年頃岩江産業により一時採取加工されたが、其の後利用者がなく殆ど自家用又は養豚飼料にされている状態である。組合長松田氏の話では、産熟期に採取すれば充分採算が取れる自信があるとのことであつた。取引先が確定すれば家庭加工業として充分に成立つ生産業と思う。然し島の人達は「うに」の利用面にはあまり無関心の様であつた。

ロ. なまこ資源について

星我地大橋の架設の影響か或は潮汐の異常か原因不明であるが、島の周辺一帯に「なまこ」の稚児が多数に産殖し其の種類も4,5種類のようで深い所(10m程度)にとらふなまこ(俗名ハネゾー)が多く漁獲されたが其の繁殖保護の見地から組合員の申合せにより来年3月まで採捕禁止中の様である。

日本での移植試験の条件によると(種類は異なるが)底質が砂泥で深さ2.5尺程度(比重)1.013~1.026附近で水温夏期24.5度位の処がよい成績を示したそう

であるが、1953年4月当研究所の始移殖試験地（羽地村真武島略図参照）に於ける鹹度は1,020—1,023を示めているから「なまこ」の棲息には適當な鹹度であり、尙岩礁附近の海藻繁茂せる所には「なまこ」類の稚兒の棲息が多く底質軟泥にして処々に陥穽点在し「あじも類」其他藻類の繁茂せる處には棘皮動物の棲息場所をそなえていると思われる。

なまこ類の利用については取前は羽地産「いりこ」として相当輸出され賞讃を得たが現在取引先も困難の様で僅かに島内消費に過ぎない。

この豊富な資源に就いても利用計画がなく、ただ組合員によつて簡易な燻製品として蔵入用程度に使用され今後の加工利用面に大きく期待されているようである。

ハ、台湾がさみ（俗名ツタヤーガニ）ばか貝、ぬのみ貝について

同島濟井出地先一帯は（干潮1—2尺）たいわんがさみの産地適地で無数に其の穴を見受ける。甲長3 極大のが多く見受けられ盛漁期にこれが利用法を考案せば家庭加工業としての特産品も可能な事と思はれた。

佐賀県有明海沿岸附近で製造されている「タニ漬」も其の一例である。貯蔵期間が3—4ヶ月を要するので其の点検せば「タニ漬」の特産品の製造も可能であろう。

ばか貝、ぬのみ貝についても其の利用は干潮時適宜採取され量産な生産はないが日々の産獲程度に利用されているようである。

ニ、毒人草について

毒人草は（俗名マネナ島、ヤータ島）附近一帯で養殖されたそうだが、療養所の患者により墮壊され其の復生産状況は不明であるが、尙所々に繁殖するのを見受けた。「もづく」の利用については羽地組合が商人により一時搬出されたそうだが生産量は不明である。

ホ、黒蝶貝について

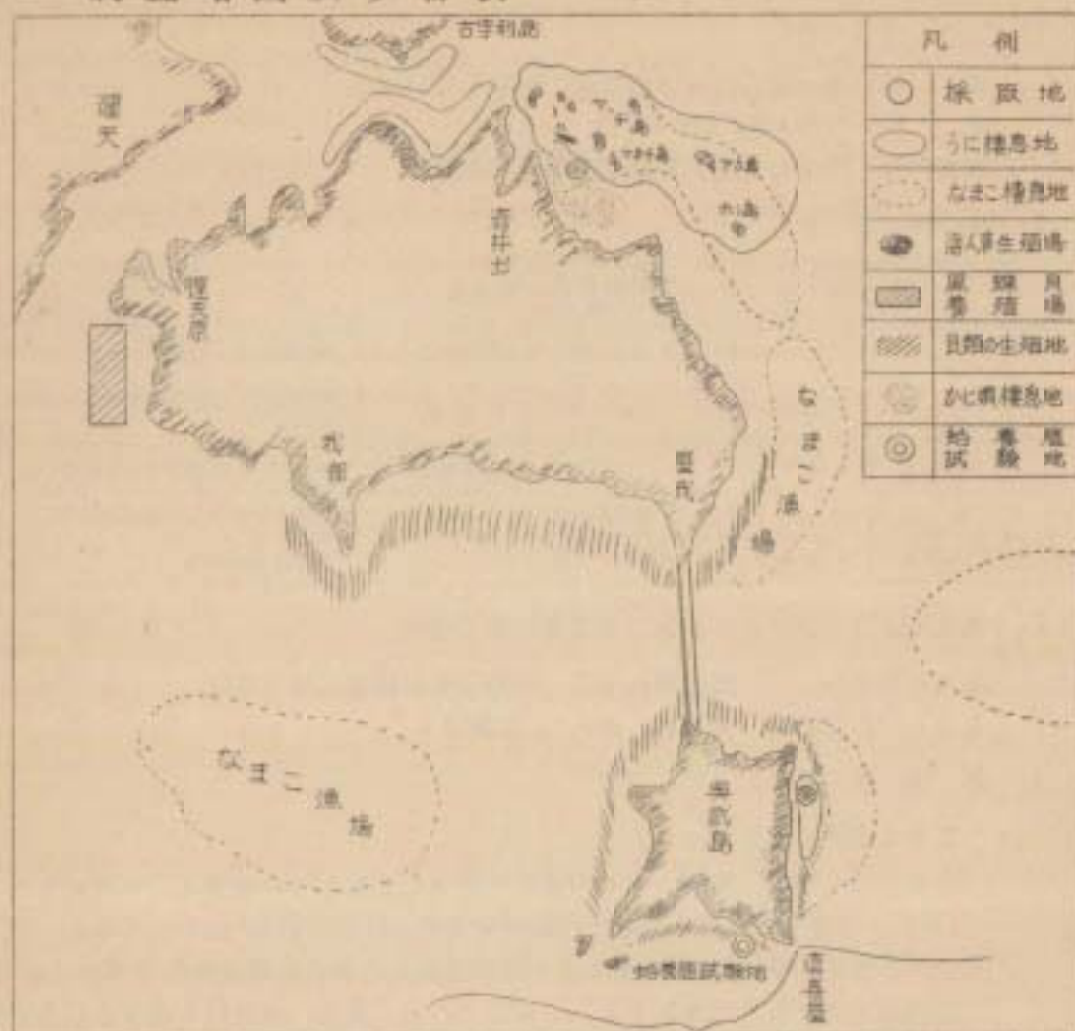
運天の養殖業者上岡廣則氏により、養殖申請中との話であるが、場所は島の南沿岸地先の運天原我部に至る間で養殖数量については不明のようである。尙、適地については専門家による調査が必要であろう。

ヘ、貝類の養殖適地について

組合長の意見としては、二候補地が挙げられるが、即ち濟井出、我部、我部等の沿岸地先で何れも陸から水路があり、沿岸砂地でも海水が滲み出ている場所でも砂泥混りである。

我部地先附近では現在、ぬのみ貝が取れるようである。適地調査は専門家の調査が必要だろう。

調査略圖及歩留表



1956年6月23日 殻付及採取量 (済井出地先) 3個中平均

規格	殻径	殻付重量	脚肉重量	歩留	備 考
大	—	—	—	—	脚肉色合良好抱卵期 間
中	8mm	45粒	3.0粒	6.6	
小	6mm	40粒	4.0粒	10.0	

1956年6月23日 殻付及採取量 (奥武島地先) 3個中平均

規格	殻径	殻付重量	脚肉重量	歩留	備 考
大	—	—	—	—	脚肉褐色程度不揃地 間
中	8.0mm	45粒	2.8粒	6.2	
小	7.5mm	44粒	1.9粒	4.3	